

親 師 会 報

第 160 号

発行
新潟県立新津高等学校
親 師 会
☎0250(22)1920

卒業生の皆様へ

親師会長 因 俊 行



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。親師会を代表して、心よりお祝い申し上げます。

高校生活の3年間は、振り返ればあっという間のようでもあり、しかし皆さん一人ひとりにとって多くの学びと経験が刻まれた輝かしい時間であったことと思います。喜びや達成感はもちろん、思い悩み、立ち止まった日々も含め、そのすべてが今後の人生を支える大切な土台となることでしょう。

思い起こせば、入学してすぐの5月には新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行となり、コロナ禍の当たり前が再構築され、制限の緩和とともに手探りで学校生活を充実させてきた年でした。試行錯誤が続く中でも、仲間と支え合い、工夫を重ねながら歩んできた姿は、私たち大人にとっても強く印象に残っています。日常や学校行事が徐々に戻っていく過程を経験したことで、人と共に過ごす時間や、何気ない日々の尊さを実感されたのではないのでしょうか。

全力で学んだ日々、熱中した部活動、仲間との絆、先生方からの暖かいご指導、新津高校3年間に仲間と共に味わったかけがえのない経験は、きっとこの先何十年も皆さんの心に輝き続けることでしょう。6月の体育祭では各軍の熱い応援を目の当たりにし、心から楽しんでいる生徒達の姿に感動したことを覚えています。優勝軍には親師会からささやかな賞品を贈呈させていただきました。コロナ禍で一旦絶えてしまった秋稜祭も、制限のない形で完全復活し、各クラスや部活動の企画や発表は眩しいばかりの青春そのもののように映りました。親師会企画のキッチンカーも大盛況で最後まで列が途絶えることはありませんでした。

これから皆さんは、それぞれの道へと進んでいきます。新津高校での経験を自信に変え、周囲への感謝を忘れず、「学ぶは高き人の道」の校訓を胸に、誇りをもって歩みを進めてください。

結びに、校長先生をはじめとする先生方、ならびに親師会会員の皆様には、心より感謝申し上げます。今後とも、新津高校の更なる発展と、生徒一人ひとりの成長のため、変わらぬご指導ご支援をお願い申し上げます。

情報活用能力と質の高い探究的な学び

校長 小林 英 明



卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、親師会の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、中央教育審議会教育課程企画特別部会が令和7年9月に公表した論点整理では、次期学習指導要領改訂に向けて「情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現」が示されました。近年、私たちの生活や仕事はデジタル化が急速に進み、情報やデータの扱い方が重要な時代になりました。また、生成AIがさらに発展し、人間の意思が一層大切になってきます。このような背景から、中央教育審議会では、学校教育での情報活用能力を体系的・段階的に育成し、それを基盤に質の高い探究的な学びを実現することを主張しています。

このことは、本校にとっても教育の大きな指針であると考えています。情報化が一層進む社会で、単に知識を詰め込むだけでなく、情報を正しく読み解き、主体的に問いを立て、協働して解決に向かう力を育むことが求められています。そのため、「情報の取捨選択と批判的思考」「探究的な学びの質」「倫理と安全の指導」などが大切といえます。探究については、形式だけを踏襲しても効果は限定的です。重要なのは、問いの質、データの扱い方、仮説の暫定性を認めつつ検証を重ねるプロセス、そして得られた成果を他者に伝え相互にフィードバックを受ける経験です。本校では「総合的な探究の時間」を中心に力を入れて取り組んでいますが、今後は各教科等でも探究の要素を持つ学習が一定程度行われ、総合探究と各教科等が連動することを目指していきたいと思えます。

また、特に高等教育で進む数理・データサイエンス・AI教育との連動を踏まえ、文系・理系を問わず育てるべき基礎的素養として注目されるのが、情報技術や生成AIの「特性の理解」です。生成AIやデータ処理技術は高速で大量の情報を扱い、文章や画像を自動生成し、我々の判断や社会的なやり取りに影響を及ぼします。その特性には、(1) 出力が確率的であり誤りや偏りを含みうること、(2) 学習データに依存するためバイアスや欠落が反映されること、(3) 説明可能性が限定される場合があること、(4) 大量化・自動化による情報拡散の速さ、などが挙げられます。これらを理解することは、単にツールを使う技能以上に、生成物の信頼性を判断し、適切に活用・制御する力を育てます。この理解は、進学先や社会に出てからの高度な学びへスムーズにつながるためにも大切です。文系・理系を問わず、これらは現代の市民として不可欠なりテラシーです。

保護者の皆様にもお願いがあります。情報活用能力と探究的な学びは、学校だけで完結するものではありません。家庭での会話、ルール設定、子どもが興味を持ったことへの対話的な関わりが、学びの深まりに寄与します。日常の関わりが、子どもたちの判断力と責任感を育てます。学校・家庭・地域が協力し合うことで、生徒たちが情報を活かし課題を解決する力を身につけ、豊かな未来を切り拓いていくことを期待しています。皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

卒業生の皆さんにも、本校で過ごした日々が皆さんの未来の基盤となるよう願いを込めて、メッセージを送ります。まず、これからの大学や専門学校等での生活やその先の社会で重要になるのは、単に知識を覚える力ではなく、情報を正しく見極め、課題を設定し、他者と協働して解をつくり出す力です。本校で培った学びのプロセスである、問いを立て、仮説を検証し、結果を振り返る一連の探究的な姿勢は、大学等での学びや研究、そして社会での実務に直結します。情報化が進む現代では、情報の量は増える一方で、信頼できる情報を見つけ出す批判的思考と、得た情報を文脈に応じて適切に扱う情報活用能力が欠かせません。

進学先では、授業やゼミ、グループワークを通じて自ら課題を設定し、文献やデータを読み解き、論理的に他者に伝える機会が増えます。実習が多い進学先もあるでしょう。失敗や修正も学びの一部です。異なる意見を受け止め、根拠を示して自分の考えをまとめる訓練が、研究や職場での説得力を高めます。私たち教職員は、皆さんが自立して学び続けられるよう、高校での学びを通じて基礎となる力を育んできました。高校を卒業しても、学び方を自分で設計する力を忘れないでください。課題に対して「なぜ学ぶのか」「何を明らかにしたいのか」を常に問い続けることが、深い学びにつながります。また、情報発信の責任についても心に留めてください。SNSやレポート発表などで意見を発信する際は、裏付けとなる情報を示し、相手の立場を考慮することが信頼につながります。情報を扱う倫理やプライバシー意識も重要です。また、大学や専門学校等は知識・技能を得る場であると同時に、自己を磨き、他者と出会い、将来を切り拓く場です。好奇心を持ち続け、多様な人々と協働し、失敗から学ぶことを恐れないうでください。皆さん一人一人の成長を心から期待しています。結びになりますが、卒業生の皆さんの新しいステージでの活躍と、在校生の皆さんの新年度の飛躍を祈念しています。親師会の皆様には、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

進路指導室より

進路指導主事 小林 穰

～総合的な探究の時間とDX ハイスクールの取り組み～

文部科学省は、総合的な探究の時間を主体的・対話的で深い学びを通して、変化の激しい社会において課題を発見し、他者と協働しながら解決していく力を育成する学習として位置づけています。新津高校では、この趣旨を踏まえ、生徒が自ら考え、探究し、学び続ける力を育成することを目的に、3年間を通じた探究活動を行っています。本校の総合的な探究の時間は、「進路の手引き」にも示されている、「Climb Up プラン」のもとで実施されています。

生徒一人ひとりが、社会や地域、身近な事象への疑問や関心からリサーチクエストを設定し、自分自身の視点を生かして課題解決に取り組んでいます。この探究活動を通して、創造性・問題発見・解決能力、批判的思考力、知的能力といった探究力を育てています。

1年生では、リサーチ・スキル（仮説検証型探究学習）を中心に取り組みます。テーマごとに班を編成し、仮説を立て、それを検証するためのデータ収集や分析を行いながら、自分の考えを論理的に説明する基礎的な力を養っています。発表活動を通して多様な意見に触れることで、物事を多面的に捉え、自分の考えを広げる姿が見られます。

2年生ではライティング・スキル、またはクリエイティング・スキルを育てます。学年合同の発表会を実施し、学年を超えて互いの発表を聞き合うことで、新たな視点や気づきを得るとともに、次年度の探究へとつながる探究心を高めています。また、高大連携協定を結んでいる大学の先生方や探究アドバイザーから専門的な助言をいただき、より深い探究活動へと発展させています。

3年生ではデザイン・スキルを育てます。これまでの探究活動の集大成として、探究テーマを論文としてまとめるとともに、進路と結びつけた探究活動に取り組んでいます。探究を通して培った思考力や表現力を、大学・専門学校等での学びや将来の進路選択へとつなげています。また、来年度3年生となる学年では、これまでの探究活動を

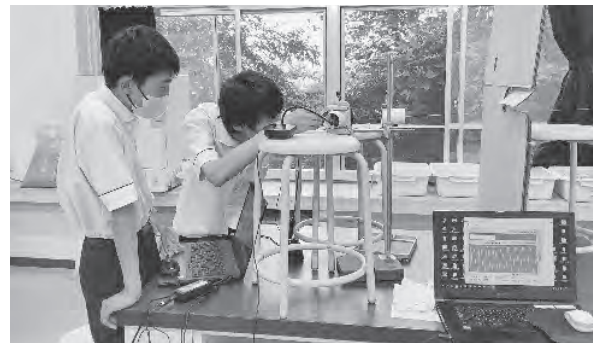
基に、進路先での学びを見据えた探究計画の具体化を目標に学習を進めていきます。

さらに本校は、令和7年度DXハイスクール事業に取り組み、デジタルツールの活用と高大連携の推進による探究学習の充実を図っています。論文分析やデータサイエンスを活用した仮説検証型探究学習を発展させ、情報収集・分析の指導改善に取り組んでいます。また、看護・医療系を対象とした質的研究の要素を取り入れた探究や、アニメ・マンガ分野、プログラミング・アプリケーション分野、デジタルセンサーや顕微鏡、ハイスピードカメラ等を活用した実験型探究学習にも取り組んでいます。

これらの活動は、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学、新潟薬科大学、開志専門職大学、新潟大学創生学部など、県内大学との高大連携のもとで進められており、生徒が専門的な視点に触れながら学びを深める貴重な機会となっています。

本校では、探究的な学びを通して、主体的に考え、多様な人と協働し、生涯にわたって学び続ける力を育成することを目指しています。

今後も、生徒一人ひとりの進路実現と社会で活躍できる力の育成に向け、探究活動のさらなる充実を図ってまいります。





進路指導室より

進路指導主事
小林 穰

【1】令和8年度大学入学共通テストについて

① 全国状況概要

新学習指導要領移行後2回目の「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)が、1月17日、18日の両日に、全国650の会場で実施されました。今回からオンラインでの出願となり、受験票は各自印刷して持参することとなりました。親師会から設置していただいている進学相談室の生徒用コピー機をエアプリント対応機種に変えてもらったおかげで、学校でもタブレットから受験票を印刷することのできるようになりました。ありがとうございました。

確定志願者数は、496,237人(昨年495,171人)で、1,066人増加(昨年比100.2%)。現役生は420,311人(昨年425,968人)で昨年比5,657人減少(昨年比98.7%)、既卒生等は71,310人(昨年64,974人)で6,336人増加(昨年比109.8%)しました。受験者数は、外国語(リーディング)ベースで456,386人。受験率(志願者数に対する割合)は92.0%で昨年並みでした。

新津高校は228名中211名が出願し、208名が新潟薬科大学会場で受験しました。昨年に続き今年も2日間穏やかな天気恵まれて、交通関係の心配も無く受験することができました。

② 平均点および自己採点結果

1月21日に大学入試センターが発表した全国科目別平均点(中間発表②)と新津高校の平均点は以下の表の通りです。

教科	科目	(中間発表)	新津高校	
		全国平均	平均	受験人数
国語	国語(200)	116.4	106.8	186
地歴	地理総・地理探究	61.9	49.0	95
	歴総・日本史探究	62.3	53.7	98
	歴総・世界史探究	60.9	49.1	10
	公共・倫理	64.2	69.3	12
	公共・政経	63.6	55.8	98
理科	物理	45.6	26.3	44
	化学	56.9	35.3	69
	生物	55.0	46.8	40
	物理基礎(50)	34.7	25.3	3
	化学基礎(50)	28.6	20.6	106
	生物基礎(50)	36.4	31.8	112
	地学基礎(50)	28.1	26.5	17
外国語	英語Reading	62.9	51.4	208
	英語Listening	54.7	46.5	208
数学	数学I A	47.3	32.5	191
	数学II B C	54.6	35.8	172
情報	情報I	56.7	46.4	191

③ 傾向

新共通テストの問題作成方針に示されている「知識・技能を活用し、思考力、判断力、表現力を問う」、「各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視する」という基本的な考え方に則った出題は昨年同様でした。

複数の文章・資料や図表などを読み込ませたうえで、授業や教科書で学んだ知識を関連づけて解答を導き出す力や、得られた情報を組み合わせて多角的・多面的に考察する力が求められている問題です。

また、問題の設定として、授業や探究学習において、生徒同士や先生との会話形式の問題や、生徒が作成したノートやレポートに基づいた考察など、日常生活や社会の事象における「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた場面が多く設定され、学習の過程が重視されています。

昨年平均点が高かった「情報I」を始め、「物理」、「国語」で平均点が下がり、1000点満点での平均点は文系が596点、理系で603点と予想されています。

④ 必要な力

2日間に渡って最大9科目の問題に対し、最大80分間集中力を維持しながら、多くの問題を素早く正確に解答する力が求められています。普段の授業の55分間に集中して取り組むところから始める必要があります。先生の話の聞きもらさずに理解することも情報収集能力として必要な力の一つと言えるでしょう。

英語のリーディングでは問題の英文量も多く、時間内に話の概要を読み取る力が求められています。このような力は試験直前になって身につくようなものではなく、入学したときから毎日の授業の中で、自ら考えながら英文の内容を理解することと、その日のうち、あるいは週末に復習を積み重ねていくことを習慣化することによって身につく力と言えます。土台となる基礎づくりは入学したときから始まっています。毎週の課題や、毎時間の授業の振り返りをきちんと行うことで、自分が何を知り、何を理解したのかを自覚しながら日々の学習に取り組むことが大切です。

【2】模擬試験とClassiの活用

模擬試験を受けたあとに、「できなかった」、「順位が悪い」、「判定が悪い」などと結果だけに拘るのではなく、模擬試験が教えてくれた自分の今の学習状況を把握することが大切です。あわせて、Classiの「学習トレーニング」コーナーを活用して自分にあった問題を少しずつ解くことが効果的です。自分の力の中で「伸ばせるところ」、「伸ばすべきところ」に気づくことができるのが模擬試験です。そこを鍛えてくれるのがClassiの問題です。Classiでは模擬試験のG T Zに合わせた個人向けの学習課題に取り組むことができます。ぜひ効果的な学習材料を提供しているClassiを多く活用してほしいと思います。

編集
後記

227人の3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業生にとっては最後の親師会報160号をお届けします。勉強も行事もがんばったかけがえのない3年間、支えていただいたたくさんの人たちの言葉を胸に、これから未来に羽ばたいて欲しいです。原稿をお寄せいただいた親師会の皆様、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いたします。